

## 2022 年度事業計画書

新型コロナウイルスの感染拡大から2年以上が経過しました。出口が見えない閉塞感を抱えていた世界と日本にもようやく経済回復の光が見えたかに思えましたが、オミクロン株の出現により予断を許さない状況が続いています。

2021 年は改めて申すまでも無く、日本の鉄スクラップが史上二番目に高い価格を記録した年でした。2008 年リーマンショック前の約7万円が史上最高値ですが、昨年は5万円代の価格となり、それが現在まで持続していることも大きな特徴です。高値が今後も続くかどうかは確実に見通すことは出来ません。しかし、カーボンニュートラルの動き、予想される中国の今後の鉄スクラップ購入増などを考慮すると、現在の状況から大きな変化はないと見る向きもあります。

このような状況のなかで、日本鉄リサイクル工業会は2022年度もチャレンジ精神を忘れずに様々な課題に取り組んでいきたいと考えています。

脱炭素、カーボンニュートラルへの挑戦が課題のひとつです。鉄鋼業界にとっては喫緊の課題のひとつですが、鉄スクラップ業界だけで達成できるものではありません。鉄鋼業界全体の動きを理解しつつ鉄スクラップ業界として何が貢献できるかをよく考え実行していくことが求められています。電炉操業における鉄スクラップの品質向上を図ることもそのひとつですが、全力で取り組んでいきたいと考えます。

2022 年度は4つの大きな枠組みの中でひとつひとつの課題を解決・実行していく所存です。以下に具体的な取り組みを挙げていますのでご参照ください。

2022 年度も工業会活動に一人でも多くの会員の方に参加して頂き、実りある活動を展開していきたいと考えますのでご協力を宜しくお願い致します。

### 1. 鉄リサイクル業を通じた資源循環型社会の推進及び2050年カーボンニュートラルに向けた貢献等、地球環境保全に寄与する事業への取り組み

持続可能な循環型、低炭素社会の実現に向けて、資源・エネルギーの有効活用や環境負荷低減等の重要性が高まり続けている中で、2020年10月に菅前総理が「2050年カーボンニュートラルの実現」を宣言以降、わが国の経済社会は、脱炭素化に向けて大きく舵を切ることとなりました。鉄鋼業界もカーボンニュートラルの実現に向けた諸施策を相次いで発表しており、その一つとして、鉄スクラップ利用の重要性が謳われております。

我が国の経済社会における資源リサイクル分野を支える重要な担い手である当工業会においてもグローバルな視点に立って、資源の再生化及び鉄鋼業界の脱炭素化への貢献を通じ、地球環境保全に尽力してまいります。

### (1)「2050年カーボンニュートラルにむけた貢献」

①2020年10月の「2050年カーボンニュートラル宣言」を発表以降、鉄鋼業界においても脱炭素化の動きが本格化し、中でも鉄スクラップの環境価値が従来に比してより注目度が高まっております。

こうした中、2021年度は、外部調査機関協力のもと「鉄スクラップの環境価値～鉄リサイクルのCO<sub>2</sub>削減効果等」の調査事業を実施いたしました。2022年度は、同調査結果に基づき、「鉄スクラップの環境価値と当業界の2050年カーボンニュートラルに向けた貢献等」の対外発信に向け準備を進めてまいります。また、海外主要国の鉄リサイクル業界におけるCO<sub>2</sub>削減への考え方や取り組み内容、会員各社が取り組める具体的なCO<sub>2</sub>削減施策等を研究し、情報提供を行ってまいります。

更に、資源リサイクル、地球環境保全分野における法令や制度の改正、新たな施策及び内外情勢等に関する講演会、研修会等を開催します。

【環境委員会】

②「鉄スクラップ業のカーボンニュートラルに向けた今後の対応等」については経済産業省金属課との意見交換に加え、日本鉄鋼連盟、普通鋼電炉工業会等、鉄鋼業界関連団体とも意見交換の場を設けていただくよう働きかけを行うこととします。

【本部他】

### (2)「高度な自動車リサイクル法の実施：マテリアルリサイクルの促進」

自動車リサイクル法に関し、自動車リサイクルの中枢を担う業界の立場から、合理的、効率的なリサイクルが実施され、「3Rの推進」及び「リサイクルの質の向上」が達成されるべく関係各機関と協議します。特に、現在進行している自動車リサイクル法見直し(マテリアルリサイクルの促進及びASRの削減)に関し、積極的に意見具申して参ります。

【自動車リサイクル法委員会】

### (3)「鉄スクラップの品質向上等に向けた取り組み」

ダストや非鉄混入等の製鋼用スクラップの品質問題に関する各支部での取り組みやリチウムイオン電池等に起因した火災事故防止策等に関する意見交換、情報共有を進めるとともに、日本産鉄スクラップの国際競争力強化等について

も議論を行っていきます。また、鉄スクラップを取り巻く課題や環境変化について普通鋼電炉工業会との対話を継続します。

加えて、鉄スクラップの品質向上等に向けた取り組みの重要性に鑑み、今後本問題に関する特別委員会の設置等を含め検討します。 【本部他】

#### **(4)「国際交流を通じた日本の鉄リサイクル業のプレゼンス向上」**

国際機関との相互交流を深め、また国際会議等の場で日本の優れた鉄リサイクルシステムや技術を引続き発信していくことにより、日本の鉄リサイクル業のプレゼンスの向上に尽力致します。アジアを中心として、広く欧米も含めた鉄スクラップのリサイクルネットワークの形成を目指します。「国際鉄リサイクルフォーラム」では会員及び関係者に資する有益な情報提供に努めます。

【国際ネットワーク委員会】

#### **(5)「鉄スクラップの適正な回収処理の推進」**

社会的にさらに信頼される鉄リサイクルを推進していくため、当工業会が自主管理する「金属リサイクル伝票」を発給し、鉄スクラップの適正な回収処理を引き続き目指すこととします。 【業務対策委員会】

## **2. 会員各社の経営、業務基盤等の維持・強化に資する事業の推進**

#### **(1)「委員会、支部、部会の各種活動の活性化と連携強化」**

業界が直面する諸課題について、会員の意見等を十分に踏まえ、担当する各委員会等を中心に的確な対応を図ることとします。加えて、支部、部会においても、独自の講演会、勉強会、研修会の開催や個別ニーズに応じた独自組織の運営等のほか、定例、臨時の支部、部会会合の活発な開催、本部・委員会との密接な連携により地域特有の問題等についても、詳細な事業展開を図ります。 【本部他】

#### **(2)「労働安全衛生の強化、徹底に向けた取り組み」**

安全水準の向上に向けた取組として、高齢者や経験年数の浅い従事者の事故発生が減少しないことから、会員各社で実施されている安衛活動の支援として設備機械や重機等の操作上の課題等を中心にした労働安全衛生講習の動画配信や作業現場等で身近に潜む危険を実際に肌で感じ、職場での安全意識を

高めるために「危険体験学習会」の開催を計画し、労働災害撲滅に向けた活動を継続します。

また、業界固有の労働災害事例調査を引き続き実施し、その傾向や要因の分析に取り組むとともに情報共有を図り、会員各社での労働安全活動の一助として活用頂くこととします。

会員の労働安全衛生活動の支援策として、安全ポスターの作製・配布、中央労働災害防止協会等で行われる労働安全事業についての情報提供を継続します。加えて、普通鋼電炉工業会の協力を得て、過積載防止に向けての過積載防止ポスターを引き続き作製し、会員各社に対する啓発と注意喚起に努めます。

また、災害共済会保険（施設賠償責任保険及び労働災害総合保険等）については、その内容を検討し会員各社に紹介します。 【業務対策委員会】

### (3)「港湾整備等の促進に向けた取組み」

鉄スクラップの東南アジア、更にその以西に向けた船積みの増加に伴い、輸出船の大型化が求められてきました。国交省主管「リサイクルポート推進協議会」内設置の「国際資源循環部会」では石狩湾新港を中心とした港湾整備を提言してきましたが、2021年3月に同港の拡張計画が承認されました（2026年に新規開港予定）。今後は、他の鉄スクラップ積出港の港湾整備や複数港積みを進言していきたいと考えます。また、国交省及び財務省は鉄スクラップにバイオマス燃料等も対象商品に加え前向きに検討を始めていますが、このような動きに対しても、機を逃さないよう積極的にその実現に参画していきたいと考えます。 【港湾委員会】

### (4)「人材確保等、雇用の多様化に向けた取組み」

①鉄スクラップ業における人手不足の中、人材確保の観点から若手人材の確保に努めるとともに高齢者雇用の促進を図る等、雇用の多様化に目を向けた活動を行います。 【本部他】

②次世代を担う若手の人材育成を目的とし知見を広げる活動「新発見セミナー21」を引き続き推進して参ります。今年度は、従来の見学を中心とした移動型セミナーのみならず、新しい形式によるセミナー開催、例えばウェビナー等についても検討します。 【広報委員会】

#### (5)「国内外の鉄スクラップの流通に係る課題解決に向けた取り組み」

鉄スクラップの国内流通や輸出に係る全般的な情報を収集し、工業会会員に発信することで工業会の活動を支援します。国内流通にかかわる諸課題(鉄スクラップの品質向上等)を取り上げ、業界がより良い方向に向かうべく支援します。【商社流通委員会】

#### (6)「鉄スクラップの需給関連データの収集、分析」

資源・環境を巡る内外情勢を迅速かつ的確に捉えるため、調査分析、情報収集に努めます。このうち鉄スクラップ需給の関係では、市場調査を主要事業とする(一社)日本鉄源協会と緊密な連携、協力を図ることとします。【本部他】

### 3. 鉄リサイクル業の社会的認知度向上に向けた各種情報発信

#### (1)「機関誌、パンフレットの更なる充実化に向けた取り組み」

工業会の活動報告、業界事業の紹介や各地のトピックス等を掲載する機関誌『鉄リサイクルニュース』を発行します。掲載記事については広く投稿を呼び掛け、紙面の充実化を図ります。また、工業会パンフレットの掲載データ等を更新し発行します。【広報委員会・本部】

#### (2)「工業会 HP の更なる充実化に向けた取り組み」

工業会ホームページについては、有益な情報、タイムリーな情報を掲載し更なる充実化に努め、会員内外を問わず多くの方々に閲覧していただけるページ作りを行なって参ります。また、新たな広報媒体、情報発信ツールの導入を検討いたします。例えば、ホームページ更新情報や工業会本部発の情報を会員へ発信するメールシステムの導入を検討します。【広報委員会・本部】

#### (3)各種事業の PR、情報発信のバックアップ

本部、各支部、各委員会が実施する各種事業のPR、情報発信など広報活動をバックアップします。【広報委員会】

### 4. 工業会自身のガバナンスに係る取り組み

#### (1)一般社団法人としての対応

新公益法人制度に基づく「公益目的支出計画」が 2020 年度決算で終了し、2021 年度より、改めて「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」に基づき事業活動を推進しておりますが、22年度も、法規範に則り事業活動を推進します。【本部他】

## **(2)工業会の業務管理・運営体制の整備・強化**

当工業会の使命が十分に発揮できるよう工業会自身の業務管理、運営体制の効率化、合理化に努めます。

### **① 定款、諸規程、内部ルール等の見直し**

定款、諸規程、内部ルール等を常時見直し整備することにより、より効率的な業務を進め合理化を図ります。 **【本部他】**

### **② 本部事務局・支部事務局の業務の効率化・合理化の推進**

本部事務局、支部事務局の日々業務の一層の効率化・合理化の推進に向け、より意識の高い連絡・チェック体制の構築に努めます。会計監査においては、監事による監査に加え、会計監査法人による監査の導入を検討します。

**【本部、財務委員会他】**

## **(3)工業会内部のコミュニケーションの深化**

各委員会や支部・部会の活動が孤立しないよう、幹部や支部・委員会間のコミュニケーションを深めるよう努めます。支部・部会の諸活動への幹部・本部職員の参加の機会を設け、事務局相互の連携を深める等、工業会の内部コミュニケーションの深化に努めます。 **【本部他】**

以 上